

笹生活史編集委員名簿

編集委員長 相川 千代治

副編集委員長 相川 達男

一班 (村の歴史・衣食住)

◎宮野行夫 野村廣司 野村行夫 宮野初美 鈴木正己

二班 (生産・職業・日常生活)

◎相川達男 野村啓一 本吉当幸 小林彦一 相川昭二郎 鈴木国三

三班 (道路・交通・交易・通信・共同生活)

◎鈴木 隆 宮野 守 相川由美 相川 昭 野村 哲 鶴田賢吉

四班 (冠婚葬祭・信仰)

◎津田助太郎 宮野 中 本吉 太 本吉利司 鶴岡源左久

五班 (年中行事・芸能・娯楽)

◎鶴田 与 鈴木 弘 宮野与郎 宮野益夫

六班 (戦前・戦中・戦後の思い出ばなし・教育)

◎宮野昭夫 宮野元嗣 鶴岡 正 相川千代治

七班 (笹の先覚者・団体の変遷・川と生活)

◎宮野 清 相川 攻 宮野 信 鶴田春男 宮野政江 野村あさ

◎印は、各専門分野の部長

あとがき

笹生活史研究会は、笹地区すべての生活の移り変わりを掘り起し、一つひとつ丹念にまとめあげる中で、地域の将来像を見つめ語り合う場として取り組んできました。まさに「先輩は後輩に引き継ぎ、後輩は先輩に学ぶ」とを生活史の編集作業を通じて積極的に実践することでもありました。

また、一人ひとりの小さな生活の歯車（宮み）が無数に集まり、それらが有機的にかみ合わさって地域の歴史をかたちづくってきました。さらにその歯車が全体の軸と結びつき、日本の歴史をダイナミックに回転させる原動力となってきました。だがこのことは、個々人に正確にとらえられない傾向が少なからずある。くみこまれた小さな歯車からは、全体像を見ることが困難であり、止むを得ないのかもしれないが、微力ながらも歴史を支え、動かしてきた事実を生活史研究会の活動を通じて確認しつつ、生活の歩みを記録集としてまとめることができ

ました。

特に研究会を終始リードしていただいた相川区長をはじめ、編集委員、さらに多くの方々のお力添えがこの記録集に結実しました。加えて、瀬川清子氏からは、戦前に笹で行った貴重な民俗調査ノートをころよく提供いただき、笹の歴史の空白を補うことができました。多くの人々のご協力によりまとめられた記録集が、「人の歩いたあとに道はできる」（中国の魯迅）の一助となれば望外の喜びである。

（榎本）

笹
生
活
史

昭和五十七年三月

編集 笹生活史研究会

発行 笹生活史研究会

君津市上総公民館

印刷 平成十二年三月

第二刷(百冊)

